



いのち

平成30年 6月 8日 第54号
日立メディカルセンター看護専門学校
日立市高鈴町 1丁目 4番10号

平成30年度入学式を終えて

学校長 末永 仁

史上稀に見る異常気温とやらで桜も既に満開を過ぎ、葉桜に変わろうとしていた4月5日に今年度の日立メディカルセンター看護専門学校入学式が行われました。今年から准看護学科廃止の準備が目に見える形となり、今年の新入学生は看護学科のみとなりました。挨拶をさせていただく演台から見ても、今までは左右に准看護学科、看護学科が分かれて着席していましたが、今年は看護学科のみ、左右に広がるような形で着座位置になりました。40名定員のところ、残念ながら31名での船出になりました。全員がそろって3年後に卒業され、全員が国家試験に合格する事を願って止みません。また、そうであるべく、学校側も努力をしなければなりません。

定員を満たすべく、2次募集までかけての新入生31名です。この事を見ても、現在の准看護学科から看護科へという5年かけての看護師養成が如何に時代にそぐわないものになってしまったかが垣間見られると思います。少子化で入学者の母数が減っていく中、より魅力的な体制、環境、総費用、またそれに対する経済支援などを行い、当校を受験しようと思って貰えるようにするかを、学校としても、そして日立市や各医療機関もよく考え、方向転換し、実行していかなければなりません。最重要課題はこの地域に如何にナースを志す子供達を増やすか、この地域で働いて地域医療、介護を担うナースを増やすかと言う事です。

国家資格である『看護師資格』は、揺るぎないものです。不況にも強く、失業とは無縁の人生を保障してくれます。また一方、人間の生死や疾病のダメージからの回復、社会復帰など、とてもやりがいと達成感、場合によってはその結果感謝されることもある素晴らしい職業であると思います。しかもこの分野は日進月歩でちょっと考えただけでもIPS細胞がいつ実用化されるのか、それによって起こる変化(特に脳や心臓の障害をも克服できるかといったような)を現場で実感、体感できるチャンスに恵まれるかもしれない、大きな夢のある分野です。下手なゲームよりよほど面白いと思います。

学生の皆さんには、学校の後輩、ご兄弟、姉妹、ご友人、ご親戚など、様々な方に看護師という職業の素晴らしさを語ってあげられるような、そんな素晴らしいナースになってほしいと思います。





入学して思うこと

看護学科1年生

入学して思うことはたくさんありますが、特に今後の生活で仕事と夜間の学校との両立ができるか不安があります。看護師である母の姿や准看護学校の学生時代に会った看護師の姿を見て自分の目指す看護師になりたいと強く思い進学を決めました。准看護学校の学生時代も今の勤務先で看護助手として勤務しながらの学生生活を送りました。勉強と仕事の両立はとても大変であり、実習が重なるとさらに忙しくなり辛かった時期がありました。

もっと知識を深めていきたい、技術を向上させたいと看護に対する考えがあり、進学を決めましたが、これからの学校生活は准看護学校の時よりもっと学ぶことがあり、今まで以上に忙しい日々が待っていると思います。自分なりに頑張っていこうとは思っていますが上手く両立できるのか不安があります。慣れない環境での生活となり疲れもでてきています。地元からの通学のことを考えると漠然とした不安を今とても感じています。

自分がなぜ看護師を目指したのか、なぜ進学を決めたのかを常に思い返しなが、どんなに辛い時でものりこえる力をこの日立メディカルセンター看護専門学校で身に付けていきたいと思っています。

今までの実習で出会った方々から学んだこと、受け持ち患者から言われた「ありがとう。」「素敵な看護師さんになってね。」の言葉を忘れずに、これからたくさんのことを学び知識として活かせるように三年間しっかりと学んでいきたいです。また、これから出会う人にも感謝してもらえよう、信頼してもらえよう看護ができるよう知識とともに技術向上を目標にし、新しい仲間と共に支え合いたいと思います。

准看護学生時代に考えた自分の看護観を思い出し、初心を常に忘れず、わからないことをわからないままにせず、聞いたり、調べたりしていきたいです。どんな時も常に目標を持って三年間過ごしていきたいです。

